

目標持つ大切さ紹介

シンクロで
北京五輪出場 青木さん講演会

福山・葦陽高

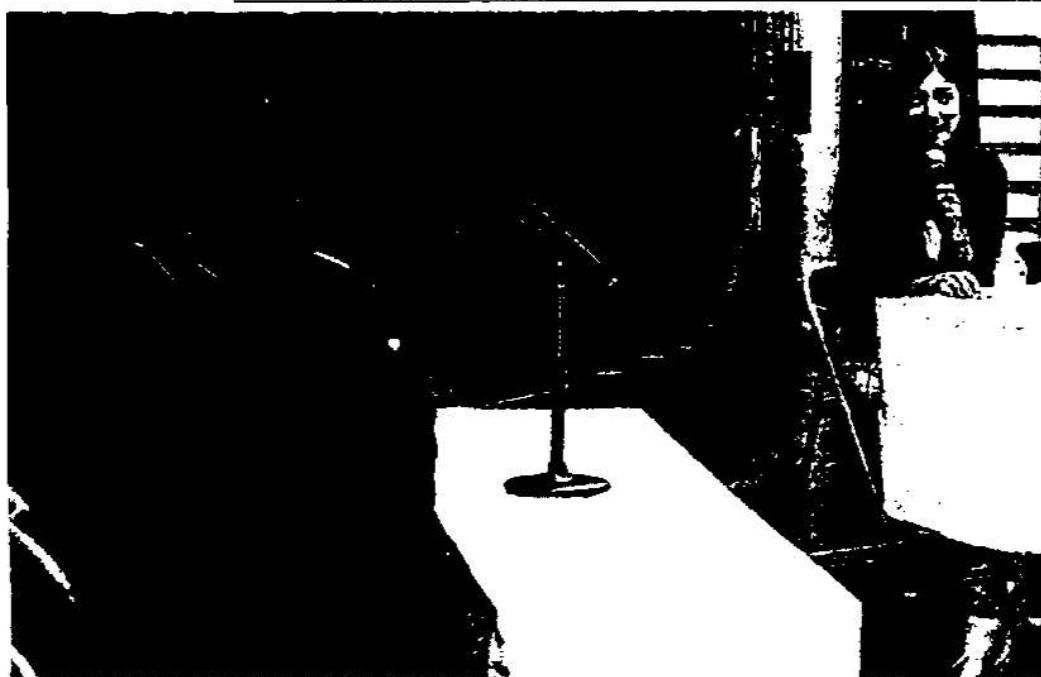
シンクロナイズドス
イミング日本代表とし
て2008年の北京五
輪に出場した青木愛さ
ん(31)が7日、福山市
久松台の葦陽高を訪
れ、全校生徒約960
人に大舞台でのエピソ
ードを披露し、生徒た

ちの将来にエールを送
った。
高校生にスポーツの
価値を学んでもらう、
東京五輪の機運を高め
る目的で、早稲田大学
オリンピック・パラリ
ンピック教育研究セン
ター主導で取り組む事

業の一環。講演会は生
徒代表4人の質問に青
木さんが答える形で行
われた。

「シンクロを始めた
小学2年から五輪出場
が目標だった」と言っ
た青木さんは、チームで
出場した北京五輪で5
位に終わったことにつ
いて、「夢の舞台に立
てたことは良かった
が、メダルが取れずに

北京五輪のエピソードなど
生徒の質問に答える青木さ
ん(右)



悔しさしか残らなかつ
た」と振り返った。そ
れでも、その思いをバ
ネに現在スポーツコメ
ンテーターなどとして
活躍しており、「20年

の東京五輪に向けてシ
ンクロの魅力伝えて
いきたい」と目標を語
った。

「高校時代にしてお
くべきことは」という
生徒の質問には、「外
国人選手とのコミュニ
ケーションでも英語が
必要だった。高校時代
から幅広く勉強してお
くことが大事」と答え
た。

生徒代表として質問
した3年熊田尚登さん
(17)は「競技を始めた
ときから五輪出場を目
指していたことなどを
聞き、自分も高い目標
を持つことが大切だ
と思った」と話した。

(南原久人)